

# クロス・アポイントメント制度による大阪大学との併任

## Dual appointment with Osaka University through a cross-appointment system

北村 薫子 武庫川女子大学 教授

Shigeko Kitamura Professor,  
Mukogawa Women's University

### 概要

クロス・アポイントメント制度により大阪大学工学研究科へ在籍出向し併任した概要を報告する。武庫川女子大学と大阪大学大学院工学研究科とのクロス・アポイントメント協定の中で、本学初の試みとして生活環境学部長・三好先生のご推薦により実施したものである。

クロス・アポイントメント制度は、文部科学省の人事交流制度で、国内では主に、国立大学と企業との間で1人の研究者が2つの機関（クロス）に雇用（アポイントメント）されて研究を行う制度として用いられている。海外からの研究者受入れに際しても研究者本人・本務機関・出向先機関いずれにもメリットがあり、1年のうち数か月まとめたエフォートで来日し、日本の大学で勤務する研究者もいる。

今回の在籍出向は、企業等でよく行われる一方向クロス・アポイントメントでなく、双方向クロス・アポイントメントとして、両大学から1名対1名を交換する協定下で行われた。非常勤講師や共同研究というかたちでなく、雇用契約のもとで2つの大学に在籍し、研究室の一員として日常的な研究室生活を含めて教育・研究活動を体験した。

期間は、1回の雇用契約更新を含め2017年2月1日～2020年3月31日で、計3年2か月の在籍出向であった。

### 1. 在籍出向の概要

#### 1-1 目的

本学におけるクロス・アポイントメント制度（以降、クロアポ）による在籍出向の目的は、国立大学の理系教育・研究を体験し、本学の教育・研究に役立てること、および、研究者として対象分野の幅を広げることであった。大阪大学にとっての目的は、女子大学における教育・研究の様子を体験し、国立大学工学部の難題とされる女子受験生の増加や女性研究者育成の参考にすることとされた。

#### 1-2 勤務の概要

在籍出向の概要を表1に示す。出向先での勤務エフォートは、2016・2017年度は月10%、2018・2019年度は年5%であった。勤務形態はその日の勤務先に従い、本学勤務日は本学の勤務制度、大阪大学勤務日は大阪大学の制度の裁量労働制であった。

出向エフォートに従って勤務日を決め、その日は出向先構内で勤務することとされた（当時は、在宅勤務や遠隔授業という形態がなかった）。専用の研究室や机・椅子はなく、学生研究室内にあるゼミ用大机を使わせていただき、研究打合せ等をはじめ、雑談、昼食やおやつなど、研究室メンバーに

まじって皆と同じ生活を過ごした。

授業ノルマや担任、ゼミ指導人数、教学局委員や学科内の委員、入試関連業務等の各大学固有の仕事や機密・個人情報扱う仕事等は、本学の減免はなく100%、出向先のノルマ等はなく0%であった。教育・研究予算も同様に100%、0%であった。

本学のPCを持ち出して大阪大学のネットワークにつながることのセキュリティ上の問題から、クロアポ予算でモバイル端末を購入していただき、阪大勤務日はその端末を使用した。このクロアポ予算は、出向者である私についたものではなく、他機関に在籍出向する阪大教員にエフォート相当の手当てとしてつく大阪大学の制度である。

なお、俸給や休暇制度・福利厚生等は、不利益にならない方の制度に従うとされ、私の場合は本学の状態が維持された。

表1 在籍出向の概要

|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
| 本務校     | 武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科             |
| 出向先     | 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻             |
| 期間      | 2017年2月1日～2020年3月31日             |
| 出向先での立場 | 特任                               |
| 勤務制度    | 出向日は出向先の勤務制度に従う                  |
| 出向エフォート | 2016・2017年度は月10%、2018・2019年度は年5% |

### 2. 大阪大学で行ったこと

#### 2-1 授業

2016～2017年度は、建築工学科目の全学年の授業で女性教員を登壇させるという方針のもと、学部2年生・3年生、修士1年生の授業を計6回行った（共担含む）。私自身にとっても阪大生の学習意欲を知る良い機会であった。ただ、非常勤講師と異なり時間割を事前調整できたわけではなく、阪大への出勤や授業のために本学の授業やゼミを休講しなくてはならない無理もあったため、2018年度からは修士1年生の年1回のみとなった。

2017年度には、建築設備学の企業見学会に本学ゼミ生も参加させていただき、一緒に見学した。

#### 2-2 研究

2018～2019年度は、出向エフォートや勤務内容の方針が変わり、研究に重点を移した。ちょうどこの同時期にスタートした研究の一部として、新設校舎に建築系の研究成果を採り入れる計画の中で、アクティブラーニング教室の照明計画を担当した。実物大実験室での再現のほか、縮尺模型や照明シミュレーションによる教室の照明設計を行った一例が図1である。内装を変化させることで、机上はほぼ同じ照度を保

キーワード：クロス・アポイントメント、武庫川女子大学、人事交流、双方向、エフォート

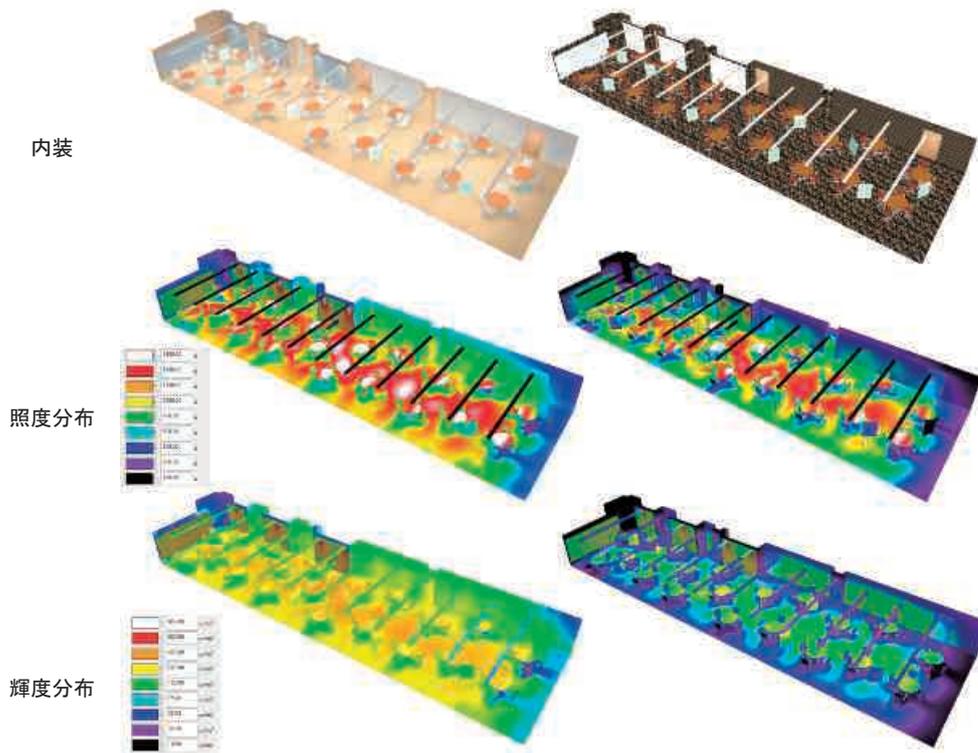


図1 教室内の人工照明および内装を変化させた照度・輝度分布シミュレーションの例

ちながら空間全体の輝度を下げて、テーブル周りの一体感をもたせ、自発的なグループディスカッションを促す光の分布になることがわかる。建築設計図面に内装データや照明器具データを入れた照明シミュレーションで、工学的な視点で技術の習得に取り組むきっかけとなり、その後の研究手法を広げることができた。

### 2-3 研究室生活

阪大での受け入れ先は、私の大学院時代から研究室同士で長く交流があり、幾度となく研究や遊びにも行っていた研究室である。本学着任前のことであり、私にとっては実は武庫女よりつきあいが古い二十数年来の「先生」「仲間」で、気心知れた関係であった。何でも話せる関係が元々あったことは大変良かったと思う。あらためて「勤務」し、院生・学生たちとの日常的な会話や、数々の懇親会、ゼミ旅行、OBの方々との交流など、学部4年生から社会人博士課程までいる30名超の研究室で、24時間どこかで誰かが頑張っている、まさに大学らしい楽しい研究室生活であった。

### 3. 得られた経験

この在籍出向で得たことは、最初の予想とかなり異なっていた。私にとって最も大きかったのは、教員の学生に対する接し方であった。学生を尊重していることが傍からもよくわかり、どんなに忙しくても（阪大教員は想像を絶する忙しさである）学生自身で考える時間をとること、研究指導から社会生活のマナーまで1つ1つ声に出して伝えていることを出

勤のたびに感じ、こういう環境で学生が伸びるのだと大いに考えさせられた。私自身の行動にも大きく影響し、自分で自覚するぐらい本学での学生への接し方が変わったと思う。授業の反応もすぐに現れ、研究室希望者の幅も広がった。研究上のチャンスの差は本学と比べられないものがあつたが、本学・本学科の長所や学生の潜在的な得意分野を客観的に理解したことも貴重な経験であった。

### 4. まとめ

クローポ制度により他大学と併任する経験は、留学と共通するものが多くあつた。授業や研究の効率は一時的に落ちるが、異文化の中に入る経験は代えられないものであり、この3年2か月で得たことを学内外問わず、さらに広げていきたい。

### 謝辞

出向を温かく受け入れていただきました大阪大学の様々なお立場の先生方、建築・都市環境工学領域の先生方・学生の皆様に心から御礼申し上げます。